

# 公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF)

## 2021年度事業報告

### I 概況

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種会合においてオンライン会議を活用し、事業を推進して参りました。事業を展開するにあたっては、当法人の賛助会員企業をはじめ、地方自治体、学識経験者と積極的に連携を図りました。

資源循環事業では、ゼロエミッション研究会を通して、食品リサイクルループの重要性の啓発に努め、新潟市において共同食品リサイクルループの申請の準備が整えることができました。ゼロエミッション研究会に参加する企業は食品関連事業者や流通小売事業者に加え、生産者、再生利用事業者(リサイクラー)、など多岐にわたり、活発な議論が行われました。

森林再生事業では、木材資源の利活用として取り組んでいる「夢ボード」が、脱炭素チャレンジカップにおいて、企業団体賞の「日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞」を受賞しました。コロナ禍で様々なボランティア活動が中止を余儀なくされる中、森林保全への関心は高まっており、人数制限を設けるなど、感染症対策を講じながら、森林保全活動を継続して実施いたしました。

### II 会員・寄附の状況

#### (1) 会員数の状況について

会員区分	前年	当年	増減
特別賛助会員	5社	5社	-
団体会員	39社	45社	+6社
個人会員	7名	7名	-
資源サポーター(団体)	2社	3社	+1社
森林サポーター(団体)	1社	1社	-
資源サポーター(個人)	238名	215名	△23名
森林サポーター(個人)	1,558名	1,529名	△29名

#### (2) 寄附の状況について

寄附区分	前年	当年	増減
森林再生事業指定寄附	1,452千円	1,373千円	△79千円
一般寄附・募金	496千円	959千円	+463千円

### Ⅲ事業活動報告（公1）資源循環事業

本事業では、廃棄物の再資源化の推進と資源循環の仕組みを開発し、持続可能な循環型社会の構築に貢献することを目的として、（1）資源循環の重要性についての普及啓発活動、（2）廃棄物管理の適正化から再資源化に向けた支援、（3）それらの活動から得られる情報の分析調査研究による新たな資源循環の社会システムの開発や提案に向けた取組を推進して参りました。

#### （1）普及啓発

広く社会に対して地球環境保全のための資源循環の重要性を啓発し、資源循環に関わる全ての関係者の参加意識を向上することにより、循環型社会の構築に貢献することを目的とした講座を実施しました。

#### 2021年度ゼロエミッション研究会 開催実績

第1回	5月20日	参加者40名	@オンライン
第2回	7月15日	参加者44名	@オンライン
第3回	9月16日	参加者46名	@オンライン
第4回	11月18日	参加者29名	新潟市現地見学会
第5回	1月20日	参加者58名	@オンライン
第6回	3月17日	参加者57名	@オンライン

#### （2）廃棄物管理適正化再資源化支援

排出事業者・廃棄物処理事業者に対し、法に則った適正な廃棄物処理を合理的・効率的に行うことを支援するシステムを提供しています。事業者の再資源化を実現することを目的とした支援を実施しました。

##### ・廃棄物管理適正化支援システムの提供

実績 3,503 事業所／2021年3月時点

3,656 事業所／2022年3月時点

前年比 +153 事業所

##### ・排出事業者、廃棄物処理事業者からの廃棄物管理に関する相談に応じ、助言及び資源循環構築の支援

実績 再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の作成・認定申請を支援 2社

#### （3）調査研究

適正化支援事業により集約される廃棄物に関する情報やネットワークを活用し、資源循環の観点から環境負荷の軽減に寄与する取り組みを推進するための調査研究に着手しました。コーヒー豆かすの高付加価値リサイクルの可能性と有効性に着目し、関係者との連携を強化して参りました。次年度は、地方自治体による実証事業に参画する計画です。

#### IV事業活動報告（公2）森林再生事業

本事業では、地球の生物たちの命の源である森林が危機的状況にある今、豊かな自然と森林資源を未来の子どもたちに残すことを目的として、（1）荒廃した民有林や公有林の管理を受託（保全協定を締結）して、それぞれの地域や森林の特性に合わせた再生活動の実施、（2）森林再生の過程において発生する木材などの森林資源の利活用の促進、（3）森林をフィールドとした環境教育の機会の提供に向けた取組を推進して参りました。

以下、地域別に報告します。

##### ◆千葉県山武市（板川の森 8ha、埴谷の森 1ha、日向の森 11ha）

###### <概要>

山武市は、かつて良質なスギ材として有名な「サンプスギ」の産地で、木材の一大供給地として栄えたことから、現在でもスギの人工林が多く存在している。森林再生事業については、森林所有者（板川・埴谷は民間、日向の森は山武市）との協定内容に基づき、計画的に活動を実施しました。

###### <活動方針>

・持続可能性、生物多様性に配慮した再生・保全活動、森林環境教育の場と

###### 機会の提供

・地域の森林資源の高付加価値化に資する再生活動、活用方法の開発

###### （1）森林再生活動

・自然環境調査を実施、調査結果を計画立案に反映

・4月～3月にかけて、月2回の定例活動を実施（15回・161名）植樹地下草刈り（2,000㎡）、既存散策路整備（1,500m）、広葉樹植樹（130

本）、

針葉樹（サンプスギ 40本）、台風被害木除去・除間伐（97本）

・5月にグリーンウェイブ植樹活動を実施（32名・スギ植樹 160本）

###### （2）森林資源の利活用

・木の駅プロジェクトに間伐材搬出（1.74トン）

・国産材活用教材「夢ボード」を21年4月に400台納品

### (3) 環境教育

- ・企業向け新卒・中途入社者研修はコロナの影響を受け中止
- ・間伐材机づくり・森林体験イベント（2回・47名）
- ・親子向けイベントと地域催事出展は、コロナのため中止

## ◆長野県東御市（東御の森 11ha）

### <概要>

「東御の森」（長野県東御市 奈良原市有林）は、標高約 1000mの中山間地にある溪畔林で、上小認証協議会の管理する SGEC 認証林の一部であり、天然林・里山区分として持続可能な森林経営や SDG s 目標達成に貢献する活動を実施しています。SGEC 森林管理の基準・基本方針、東御市森林整備計画に即して、東御市と連携し計画的に活動しています。

### <活動方針>

- ・SGEC 森林管理の基準、東御市森林整備計画に即し、持続可能な森林経営に貢献する活動
- ・生物多様性・森林生態系に配慮した活動
- ・在来生物の生息環境保全を目的とする活動
- ・森林の多様な機能についての普及啓発を目的とする活動

### (1) 森林再生活動

SGEC 『緑の循環』の7つの基準のうち、基準2（生物多様性の保全）を

#### 目標とする活動

- ・定期巡回（月1回）
- ・定期的な自然環境調査（月1～2回の生物調査）を実施。報告書の作成（東御市を經由して上小森林認証協議会に報告書を提出）
- ・東日本台風による被災エリアの事後確認
- ・特定外来植物（オオハンゴンソウ属）制御による在来種の保全  
※（独）環境再生保全機構 地球環境基金助成事業

### (2) 森林資源の利活用

森林資源の慣習的な利用の継承（情報収集）

- ・信州の薬草文化（民間伝承）（地域住民からの情報収集）

### (3) 森林環境教育

SDG s 目標達成に貢献する森林環境教育（目標4・13・15・17）

- ・森林環境イベント（東御市民対象・森林に対する普及啓発）  
森の自然観察・森林の多様な機能・東御市の森林管理状況等  
※（公社）国土緑化推進機構 緑と水の森林ファンド助成事業

※4回計画したが、コロナ禍により実施できず。代替企画として関係者交流会・個別の森案内・資料配布などを随時実施  
・中・高校生対象の森林体験学習（学校法人郁文館夢学園からの受託事業）

※コロナ感染拡大予防のため現地実施はできず、オンライン実施。

#### (4) その他

- ・(独)環境再生保全機構 地球環境基金助成事業  
3年間(2019~2021)の助成事業の最終年度にあたり、3年間の活動報告書を提出
- ・コロナ禍への対応  
コロナ感染拡大予防のためイベント開催は中止。地域住民と接触しない自然環境調査(生物調査)、特定外来植物抜取作業を中心に活動した。
- ・With コロナ時代の普及啓発方法の模索として、森の紹介動画を作成し発信する、少人数による観察会、オンライン交流会(ZOOM使用)を試みた。

#### ◆その他地域

愛知県瀬戸市「海上の森」(愛知県県有林)

- ・県との協議を進め、2020年4月より2haの保全協定を締結(活動実績)

第1回	4月24日	参加者24名	看板設置
第2回	11月6日	参加者18名	森の手入れとクリスマス工作
第3回	3月5日	参加者7名	森の健康診断

兵庫県丹波市(ウッディミナミの森3ha)

- ・コロナの影響を受け、予定していた活動は中止

大分県臼杵市(臼杵の森50ha)

- ・コロナの影響を受け、予定していた活動は中止

#### V その他

##### (1) 告知・広報活動等

- ニュースレターを年4回発行しました。賛助会員や関係者等へのメール配信のほか、前述の各種イベント等の参加者への配布、またホーム

ページにバックナンバーを掲載しました。

- ホームページの更新、フェイスブック公式ページへのトピック投稿を随時行い、活動状況や事業に関わる最新の動向などをより分かりやすく伝えられるよう工夫し、情報提供に努めました。
- ゼロエミッション研究会の1年間の活動成果をまとめた報告書を発行しました。
- 日向の森（千葉県山武市有林）での活動10周年を記念し、日向の森活動10周年記念レポートを発行しました。

## (2) 会務の会合について

2021年度の各種会合開催状況は以下のとおりです。

### ① 理事会 4回開催

2021年 5月31日

2021年 6月28日

2022年 1月31日

2022年 2月28日

### ② 評議員会 2回開催

2021年 6月28日

2022年 2月28日

### ③ 評議員選定委員会 1回開催

2021年 6月25日

### ④ 定例会 8回開催

理事会非開催月に開催

## (2) 内閣府への報告について

- ① 「2020年度事業報告書ならびに決算報告書」を、2021年6月に提出しました。
- ② 「2022年度事業計画書ならびに収支予算書」を、2022年3月に提出しました。

以上

## 2021年度事業報告の附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

2021年5月

公益財団法人 Save Earth Foundation